

# 1. 災害復興支援ボランティア委員会の取組

本学では、2011年3月に発生した東日本大震災（以下、「震災」という。）の復興支援活動として、震災直後の6月より、被災地へのボランティアバスを運行するなど積極的に支援に取り組んできました。この復興支援活動を担ってきたのが「東日本大震災等復興支援プロジェクト」で2020年度をもってその役割を終えています。

震災以降も、全国各地で毎年のように豪雨や地震などの自然災害が頻発し、地域住民の生活や尊い人命が奪われるといった甚大な被害をもたらしています。直近では令和6年能登半島地震が発生し、多くの方が犠牲となり、現在でも避難生活を余儀なくされている方が大勢います。また、南海トラフ地震や首都直下地震をはじめ、大きな被害をもたらす可能性のある自然災害の発生が高まっていることの警鐘が鳴らされています。

このような状況から、本学では、副学長をトップとする「災害復興支援ボランティア委員会」（2021年4月1日設置）において、災害復興支援に向けたボランティア活動等と速やかに検討できる体制を整えています。

## 災害復興支援ボランティア委員会の概要

### 【職務と審議事項等】

災害復興支援ボランティア委員会は、自然災害等が発生したとき、大学として迅速かつ円滑に復興支援に係るボランティア活動が遂行できるよう、次の事項について審議することを職務としています。

- (1) 復興支援に係るボランティア活動の実施の有無に関する事項
- (2) 復興支援に係るボランティア活動の内容とその範囲に関する事項
- (3) 復興支援に係るボランティア活動に要する経費等に関する事項
- (4) その他復興支援に係るボランティア活動に必要な事項

### 【構成員等】

この委員会は、学長のリーダーシップの下、次のメンバーをもって構成しています。

- (1) 学長が指名する副学長 1名
- (2) 学長が指名する学部長 若干名
- (3) 学生部長
- (4) ボランティア・NPO活動センター長
- (5) ボランティア・NPO活動センター副センター長
- (6) ボランティア・NPO活動センター事務部長
- (7) 学長が指名する学内の学識経験者 若干名

### 【事務局】

本件に関する事務局は、ボランティア・NPO活

動センター事務局が担います。事務局では、自然災害等の発災に伴う被災状況等について、必要に応じて現地を訪問するなどして情報収集を行ない、災害復興支援ボランティア委員会に情報提供を行ないません。また、復興支援活動を行なうにあたり、被災地との連絡調整などの役割を担うことになります。

## 2023年度委員（学長指名委員）

2023年度の災害復興支援ボランティア委員会委員のうち学長が指名する委員は、次のとおり。

- ・副学長：大門 弘幸 副学長（新規）
  - ・学部長：長谷川岳史 経営学部長（継続）  
清水 耕介 国際学部長（新規）
  - ・学識経験者：川中 大輔 社会学部准教授（新規）
- 以上の学長指名員を含めた8名の委員で構成しています。

## 2023年度の主な議案

### ◆第1回委員会（2023年6月5日開催）

#### 【審議事項】

- ・2023年度の東日本大震災被災地における復興支援ボランティア活動について（提案・承認）

### ◆第2回委員会（2024年2月8日開催）

#### 【審議事項】

- ・令和6年能登半島地震被災地の状況とボランティア・NPO活動センターとしての今後のボランティア活動について（情報共有・提案・承認）

- ・災害復興支援活動における交通費助成制度の新設について（提案・継続審議）

#### 【報告事項】

- ・2023年度の東日本大震災被災地における復興支援ボランティア活動について（報告）

#### ◆第3回委員会（2024年3月13日～19日開催

～メールによる審議）

#### 【審議事項】

- ・災害復興支援活動における交通費等助成制度の新設について（修正提案・承認）

### 最後に

令和6年能登半島地震の復興支援活動について、

〈報告者：吉貞 正流〉

次年度早々の活動実施に向けて、被災地でのボランティア活動の安全確認、関係諸機関との連絡調整、宿泊場所の確保など様々な準備を行ないました。2024年度の活動報告書で、学生有志による入学式での募金活動、そして被災地現地における復興支援ボランティア活動について、報告させていただきます。

最後になりましたが、能登半島地震でお亡くなりになられた皆さまのご冥福を念じ申し上げます。そして、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

事業名	東日本大震災被災地域でのボランティア活動 ～学び、知り、活動することから始まる防災と減災～			
実施日/場所	2023年8月31日（木）～9月4日（月）／宮城県石巻市・女川町			
参加人数	学生19名（20名で実施予定が直前に1名キャンセル）、コーディネーター2名			
参加者名	河部蒼真（先理4） 大杖優斗（経済2） 蔵本千優（社会2） 三嶋千桜（文学1） 岡北萌花（国際1）	伊野涼雅（政策4） 野田怜臣（法学3） 杉本脩輔（社会2） 石河大翔（先理1） 安場こころ（国際1）	成川雅妃（社会3） 假屋杏純（社会2） 萩原千絵（社会2） 武居美伶（社会1） 田中あかり（心理1）	早瀬太陽（法学3） 北村尚暉（社会2） 林 幸奈（農学2） 岩田望海（国際1）

## 1. 概要

災害が続いている現在において「震災を学ぶことは未来の命を守ること」であることを学び、学生自身もその担い手になれることを知り、実践へとつなげることを目的とし、「学び、知り、活動することから始まる防災と減災」をテーマにこの事業を実施しました。

ボランティア活動を中心に、「災害」について学び、語り合う機会を作りました。

「防災」について考える機会として、一般社団法人 雄勝花物語による防災教育の受講した他、公益社団法人3.11みらいサポートのスタッフの方に、MEET 門脇を案内していただきました。また震災遺構門脇小学校と大川小学校及び長面地区を語り部付きで案内していただいてから、「その時〇〇だったら…」と多様な立場になって考えるワークショップを行ないました。

今回は、初の試みで地域住民と一緒に清掃活動と交流会を行ないました。

活動の終了後は必ずふりかえりの時間を設け、それぞれの気づきや学びを共有する時間を作り、学びを深めるようにしました。



## 2. 活動スケジュール

### (1) 事前ミーティング

8月23日（水） 10：00～12：00

（深草）22号館302教室

- ①持ち物等、活動中に必要なことについて説明
- ②活動前に知っておいて欲しい東日本大震災に関

するミニ知識講座

③参加メンバーの顔合わせ

(2) 現地訪問

○8月31日(木)【1日目】

8時に深草キャンパスをバスで出発し、京都駅を経由した後、宮城県石巻市へ。車中ではアイスブレイクやチームビルディングを兼ねて参加者同士の自己紹介や他己紹介、クイズ大会、これから訪問する石巻の震災に関するドキュメンタリーの上映等を行ないました。21:30頃、石巻市内のホテルに到着。

○9月1日(金)【2日目】

石巻市雄勝町において、午前は雄勝ローズファクトリーガーデンで防災教育を受講し、大津波警報の津波の高さの意味や地形による津波の特徴などを教えていただきました。また、当時の教訓から、生きるための行動について学びました。座学だけでなく、雄勝小学校跡地で当時の避難経路の一部をたどる経験をしました。

午後は震災当時、雄勝病院の近くに住んでおられた高橋頼雄氏から当時のお話を伺いました。「自分の命をまず守る」ことを大切にしてほしいという言葉が印象的でした。また、病気から車いす生活となり気づいたことのお話も聴かせていただき、車椅子を学生が押してみるという機会もいただきました。

その後ガーデンに戻り、薬草園の整備活動を行ないました。この日は、レンガを並べるための整地作業でした。今年の夏は雄勝も暑く長時間の作業は熱中症のリスクもあるため、休憩をはさみながら1時間程度の作業となりました。作業後、ガーデンの裏山の津波到達点付近まで登りました。

○9月2日(土)【3日目】

午前は、3.11メモリアルネットワークの藤間千尋氏に震災遺構である門脇小学校とMEET門脇を案内いただきました。門脇小学校は、津波と津波火災の被害を受けた学校で、その痕が生々しく残っています。避難の連鎖が生まれたというお話が学生たちの心に残っているようです。また、門脇小学校の裏山である日和山への避難経路の一部をたどりました。

午後は、震災遺構の大川小学校へ。大川伝承の会の語り部であり、3.11メモリアルネットワークのメンバーでもある高橋正子氏からお話を伺いました。学校の裏山にも上がらせてもらいました。大川小学校で起きた事故の話だけでなく、地域の方から愛されていた大川小学校のお話を聴くことができました。その後、長面地区の防潮堤を見学しました。そ

して、大川コミュニティーセンターで、「あのとき、大川小学校にいるのが私だったらどうする?」「今の私たちにできること」等を考えるワークショップを行ない、災害を自分事として考えました。

○9月3日(日)【4日目】

午前は石巻市内でのぞみ野第2町内会の住民のみなさんと一緒に、復興公営住宅周辺の除草作業や清掃活動を行ないました。初めての訪問でしたが、「普段手が回らないところまでやってもらえて良かった」と言っていました。その後、集会所で「お茶っこ会」(交流会)ということで、お茶を飲みながら、それぞれ自由に会話を楽しみました。お茶やお漬物を用意してくださっていて、みんなで美味しくいただきました。住民のみなさんから、「また来てね」と温かく迎え入れていただきました。

午後は女川へ移動し、女川1000年後のいのちを守る会のお二人の案内で、旧女川中学校に建てられたいのちの石碑を見学しました。震災当時小学6年生で、その後中学生のときに女川の復興やまちづくりに関わり、自分たちができることを考えて取り組んでこられたお話を伺いました。学生と年齢が近いお二人の話は、自分たちにできることを考える良い機会になりました。

その後、3日間のフィールドワークやボランティア活動のふりかえりを行ない、京都へ向けてバスで石巻を出発しました。

○9月3日(土)【5日目】

・8:45頃に深草キャンパスにバスで到着し、解散



### 3. 参加者の声

・ボランティア活動で宮城の方々と汗を流しつつ、震災当時のことや震災後の今のお気持ちを聞くことができました。宮城まで足を運ばなければ聞くことができなかった生の声も、生の風景も見て、感じることは私がこのプログラムに参加して一番良かったことだと感じています。

- ・門脇小学校や大川小学校といった震災遺構には「被害の記憶」を伝える役目がある一方で、震災以前の「日常の記憶」を伝える役割を担っていることを実感した。たとえば大川小学校での語り部さんのお話では『震災以前の大川小学校がどれだけ素敵であったか』など、昔そこにあった何気ない日常も沢山教えてくれた。だからこそ、大川小学校での出来事を悲劇で終わらせてはいけないと感じたし、なにより大川小学校での出来事を教訓として、同じ過ちを繰り返さないように自分事として防災・減災に取り組む必要があると考えさせられた。
- ・頼雄さんの言葉通り、自分の命をまずは守らなければならない。そのための物の用意や、それだけでなく知識や心の用意もしておく必要があると感じました。自分の命を守る準備が他の人の命も守ることにつながると思います。これらを周りの人に伝えることはもちろんですが、宮城で語ってくださった方々の言葉が私たちの心に刺さったように、そんな語り方をしたいと思いました。

#### 4. コーディネーター所感

発災時、小学校低学年だった学生がどの程度このプログラムに反応してくれるのか心配でしたが、今

度も定員を超える申込があり、このテーマに関心を持つ学生がまだ多いことを実感し、とても嬉しく思いました。

今回のプログラムでは初めての試みとして、地元の自治会を支援するNPOの仲介でのぞみ野第2町内会の住人の皆さんと清掃活動を行なった後、交流会をしました。共に何かをするということは、こんなにも距離を近くするのだなぁと思うくらい、交流会では学生と住民の皆さんが打ち解けてお話ししており、その交流の中で、震災当時のお話やその後の生活等について貴重なお話をいろいろと聞かせていただくことができたようです。

プログラムに対する満足度は非常に高いのですが、ボランティアというよりも学びの要素が濃くなってきていることもあり、今後の実施形態について再考する時期に来ているように思っています。また、どうしてもスケジュールを詰めすぎて少し活動がハードになってしまう感があるので、そういった点についても見直していきたいと思います。

最後に、学生達を温かく受け入れ、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

〈報告者：竹田 純子

(深草キャンパス コーディネーター)〉